

## アグリビジネス創出フェア in 東海 Web展示

### 岐阜県中山間農業研究所 ②

～クリ栽培の省力化に向けた機械化体系の構築～

- ① 背景と目的
- ② 要約
- ③ 防除作業の省力化技術
- ④ 収穫作業の省力化技術

# クリ栽培の省力化に向けた機械化体系の構築



## 背景と目的

県下のクリ産地では高齢化による労働力低下で産地の衰退が懸念されている。そこで、クリ栽培で多くの労力を必要とする防除、収穫作業の省力化を図るため、機械化体系を構築する。

## 要約

- 無人航空機での防除により、慣行と同等以上の効果が確認された。
- 機械収穫において慣行方法より高い収穫能率を発揮することができた。

## 防除作業の省力化技術

殺虫剤3剤、殺菌剤1剤について、慣行と同等以上の防除効果が示された。

### <試験方法>

試供樹 ‘ぽろたん’ 4~6年生 (ディアナWDG、フェニックスフロアブル)

‘美玖里’ 4~6年生 (マブリック水和剤20)

‘筑波’ 7~10年生 (ジマンダイセン水和剤)

試供機材 航空防除:マルチコプターT10K、慣行防除:背負式動力噴霧器

航空散布 樹上2m(高度4~6m)直線飛行、果樹用ノズル使用



図1 支所における航空防除の様子

表1 航空防除の処理条件と試験結果

薬剤	対象病害虫	希釈倍数	処理液量	処理時期 (月/日)	試験結果		
					試験区	総果数 (果)	被害果率 (%)
ディアナEDG (スピネトラム水和剤)	モモノゴマダラノメイガ	100倍	2L/10a	8/1	航空防除	806	1.4
					無処理	243	4.1
フェニックスフロアブル (フルベンジアミド水和剤)	モモノゴマダラノメイガ	40倍	4L/10a	8/27	航空防除	352	1.6
		4000倍	200L/10a		慣行	565	1.9
					無処理	243	4.1
マブリック水和剤20 (フルバリネット水和剤)	クリシギゾウムシ	40倍	4L/10a	8/27	航空防除	718	0.1
		2000倍	100L/10a		慣行	939	1.9
					無処理	794	1.5
ジマンダイセン水和剤*1 (マンゼブ水和剤)	実炭疽病	10倍	8L/10a	7/29、8/7	航空防除	10489	4.9
		600倍	200L/10a		慣行	7669	10.7
					無処理	3282	12.8

\*1 2025年11月現在航空防除(10倍 8L/10a散布)の適用なし

## 収穫作業の省力化技術

手収穫では落果密度に関わらず作業能率は一定だが、機械収穫は落果密度4.8~10.8kg/aの範囲では、密度が高まるほど作業能率は高まると考えられた。

### <試験方法>

試供樹 ‘丹沢’、‘筑波’、‘ぽろたん’ 8年生

収穫機 オーレック社製「バーディーマロンピッカー」

収穫方法 (機械収穫) 熊手寄せ集め→機械収穫→

拾い残し手収穫→イガ剥き機によるイガ剥き  
(手収穫) 火ばさみによる手収穫→イガ回収



図2 機械収穫調整作業の様子 (左:収穫、右:イガ剥き)

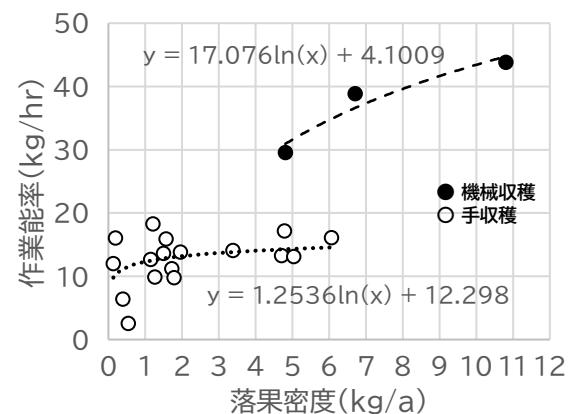


図3 落果密度と収穫能率の関係(2025)